

1 研究の概要

(1) 研究主題

新学習指導要領の趣旨を踏まえた小学校理科の授業の質的改善

(2) 研究の目標

新学習指導要領の趣旨を踏まえて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた小学校理科の授業の質的改善を図るまでの道筋を明らかにし、授業を見直し質的改善につなげるための方法を提案する。

(3) 研究方法

- ア 小学校理科で身に付けさせたい資質・能力や見方・考え方に関する理論研究及び実態調査
- イ 理論研究及び実態調査を踏まえた授業改善の視点と手立ての策定
- ウ 「主体的・対話的で深い学び」の視点から質的改善を図り、構想した授業の実践
- エ 授業実践を通じた児童の変容の分析・考察
- オ 授業改善の視点と手立ての有効性の検証

(4) 研究内容

- ア 小学校理科で身に付けさせたい資質・能力や見方・考え方に関する理論研究を行い、児童の実態を調査します。
- イ 理論研究と児童の実態を基に、従来の授業について、「主体的・対話的で深い学び」の視点から見直し、児童の実態に応じた改善の手立てを探ります。
- ウ 従来の授業について、「主体的・対話的で深い学び」の視点で見直しを図り、授業展開案、ワークシート、教材等を作成し、研究委員の所属校で検証授業を行います。
- エ 検証授業及び単元全体を通じた児童の変容を分析・考察し、改善の視点や手立ての効果を検証します。
- オ 授業改善の視点と手立てを一般化し、汎用性のあるものにして、質的改善を図るための方法を明らかにします。

(5) 1年次の成果と課題

- ア 研究の成果
 - ・授業改善への実態分析、その後の授業改善に向けた計画、実践に取り組んだ後の授業分析、その後の年間を通して取り組む手立ての付加修正という一連の過程を、年間を通して繰り返していくことで、授業改善が図られることを明らかにすることができました。
 - ・一年間の実践を通して、新学習指導要領に述べられている資質・能力が授業場面において、どのような様相として表出されるかについて明らかにすることができました。
- イ 研究の課題
 - ・平成 29 年度に実践した事象提示と結果をまとめる過程以外の学習過程についても、実践例があることが望ましいと考えます。
 - ・理科授業の経験が少ない授業者であっても、授業者自身が、自分の授業改善のために、どのような年間を通して取り組む手立てを取り入れればよいかを考えることができるように、具体例を示していく必要があると考えます。